

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 大川、千賀、大石、西

以上4名

2 山城・ルート 槍ヶ岳 中崎尾根

3 交通手段 電車 **車** バス

4 行動記録

入山日 2013年12月28日 下山日 2013年12月31日

12月27日(金) 20:30 神戸出発→西宮経由→翌 2:30 新穂高駐車場 テント泊

12月28日(土) 6:00 起床→7:40 新穂高(H1200)出発→穂高平→白出沢出会→
チビ谷出会→14:40 槍平(H2000) 避難小屋 泊(行動7時間)

12月29日(日) 3:30 起床→5:50 槍平出発→10:50 中崎尾根稜線 (H2330) テント泊(行動5時間)

12月30日(月) 3:00 起床→5:30 中崎尾根稜線 (H2330)出発→千丈乗越岩稜取り付き→千丈乗
越→槍ヶ岳山荘冬季小屋→千丈乗越→16:10 中崎尾根稜線 (H2330) テント泊
(行動10時間40分)

12月31日(火) 3:00 起床→6:00 中崎尾根稜線 (H2330)出発→槍平 →白出沢出会 →12:10
新穂高(行動6時間10分) →入浴後 帰神 20:30

5 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

槍の肩に到着した時間が12時で、タイムリットの時刻であった。さらに荒天かつホワイトア
ウト状態だったため、下山の安全を考え、槍の穂の登頂は中止し、下山した。
それ以外は予定通り行動できた。

b 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか 発生した場合は具体的に記す

- ・HOが飛驒沢を登りのトラバース中、谷側の足が穴に落ち、バランスを崩し滑落しかけたが、
山側の足とピッケルで体を止め、ことなきを得た。
- ・Nが千丈乗越からの下降で、トラバースから、バックステップの態勢に変える時、アイゼンを滑ら
せ滑落しかけたが、後ろ向きも状態でピッケルを雪面に刺し、体を止め、ことなきを得た。

C 山行の問題点、今回の教訓

- ① ピッケル近くでは雪が四方八方から吹き付け、また非常に低温であったため、メガネが凍り
つき、視界がなくなった。メガネを外し裸眼で何とか対応した。今後メガネ装着時の風雪
対策を考える必要あり。
- ② 飛驒沢の最後の詰めの時、氷付アウトで、一時ルートが分からなくなった。地形図の確認と、
過去のその地点の記憶から何とか乗り切ったが、氷付アウト時のルートファインディング難しさを
痛感。
- ③ ラッセル等厳しく、予定時間より遅れがちになった。今後さらなる体力アップ・軽量化が必

要。

(天候)

- ・ 12月28日は朝小雪、曇りがち。29日は朝快晴、昼前から高所で悪化未明に15cm程積雪あり。30日は2500m付近では晴れ間もあるも、2700m以上では風速10m程度、降雪続き、杳々アウト状態。
- ・ 31日は未明に30cm程度の積雪あり、夜明けからは曇り。

(感想)

- ・ パーティでベストを尽く、厳しいコンディションの中、槍の肩までよく登れたと思う。厳冬期の槍ヶ岳の厳しさをまた経験できて良かった。
- ・ 槍・穂高連峰の冬山の体力面・気力面の厳しさを実感した。入山には十分なトレーニングが必要。また相当の覚悟が必要。
- ・ メンバーに恵まれ充実した山行となった。千賀さん、大石さん、西さん、ありがとうございました。
- ・ 今回の体験を生かし、再度厳冬期の槍穂高峰に挑戦したい。

報告者氏名 大川 肇

平成26年1月4日

写真等は神戸労山HP ブログをご覧ください。